

会 議 録

I. 附属機関等の会議の名称

令和元年度 第4回 松川町地域公共交通対策協議会

II. 開催日時

令和2年3月17日（火） 午後3時00分～3時35分

III. 開催場所

松川町役場 2階 大会議室

IV. 出席者氏名

《委員》

宮下智博会長 藤澤洋二委員（代理/堀内郁勇） 片桐実委員（代理/片桐博）

中川初俊委員 大澤今男委員 小澤文人委員 宮島和子委員

原節子委員（代理/山本安津子） 丹羽克寿委員（代理/長岡真実） 丸山義廣委員（代理/鈴木進）

平賀久則委員（代理/黒河内淳史） 小沢雅和委員 高坂敏昭委員

[欠席：水野一昭委員 林貞喜委員 芦澤千恵子委員 唐木達也委員]

《事務局》

久保友二幹事長 佐々木保事務局員 河野通祥事務局員

[欠席：小木曾雅彦事務局長]

V. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

（公開）

VI. 傍聴人の数

7人

VII. 協議事項（公開）

(1) デマンドタクシー中間報告について

(2) 住民からの通学定期券の無料化等を求める要望について

VIII. 議資料の名称

・次第及びVIIに係る資料

IX. 審議の概要

1. 開会（佐々木係長）

2. 会長挨拶（宮下町長）

3. 協議事項

(1) デマンドタクシー中間報告について

〈事務局より説明〉

※質疑・意見なし

(2) 住民からの通学定期券の無料化等を求める要望について

〈要望①について事務局より説明〉

委員：前回の協議会で、住民からの要望ということで発言をさせていただいた。今回の説明を聞くと、ある程度要望が認められたということが分かった。

また、要望②についても、住民から私に要望があったのだが、それぞれ事務局で進めているということがわかったので、この場をお借りしてお礼申し上げます。

会長：要望②についての話が出たため、事務局から要望②についての説明をお願いする。

〈要望②について事務局より説明〉

会長：要望①、②含めて何かご意見があれば。

委員：現在、私が住んでいる地域は無料定期券が発行されているため、全町的に無料となることに異存はないが、大島・上片桐通学便に限っては北の端から南の町境まで回らなくてはならず、時間的な負担はすべて上片桐地区がしている。そういったことを理解していただくとともに、利用者数の増加が見込まれるため、上片桐地区と大島地区の両方に通学便を出していただければと思う。

会長：この会議に至るまでに庁舎内で検討を重ねてきた。その中で、無料化にするとそういった意見が出てくるといったことも話が出ていた。それ以外に路線のことも考えていかなければいけないため、今回、意見があったということを受け取め、今後の検討の材料とさせていただきます。

委員：説明の中で、町、教育委員、国と検討をしていくといった話があったが、教育委員会においてはこういったことが検討課題になるのか、お伺いしたい。

委員：教育委員会として、コミュニティバスの利用については保護者の判断にゆだねており、特に制限をかけていなかった。先ほどの話に戻ると、公平性をいかに担保するかということが課題となってくる。子どもたちが住んでいる場所と学校との距離の中で、どうしても合理的な配慮が必要な地区があるため、そういったことについても考えなければいけない。したがって、単に大島・上片桐通学便を使っている皆さんだけの問題ではなく、広く小中学生の通学の足の確保をどうしたらいいかということは、ある意味全町的な立場で考えていかなければいけない問題だと思っている。協議の場を広げ、たくさんの方々のご意見をいただいて教育委員会の意見をまとめていけたらと思う。

委員：国との検討についてもお伺いしたい。

事務局：定期券の金額などは、国に申請をして認めていただいているものであるため、もし無料とする場合は協議会を経て国に申請し、認めていただいたところで無料での運行となるといった流れになる。

委員：わかった。

委員：先ほど教育長の話の中で、全町的とおっしゃっていたが、そのポイントは何か。

委員：自宅と学校までの距離の問題である。

コミュニティバスが走っているところと走っていないところがあり、今は大きな声となっていないが、無料化といった形で決まり広がっていけば、北小学校も含む他の子どもたちの足の確保をどうするのかといった問題が出てくる。

もう一点、時短授業などを考慮し、通常便のバスに乗れるように手配するといったことについてだが、本日は小学校の卒業式と中学校の終業式があった。いつもと違う時間帯のため、そのためのバスを教育委員会が特別に運行させている。これはコミュニティバスではないため、このバスを出すための費用が当然かかっており、そういったことも考えていかなければ難しいと思う。総じて「子どもたちのために」というところが、押しなべて町の全体にいきわたるような立場で検討する必要がある。

会長：どうすれば無料化が可能であるかという次の段階を検討するとともに、子育て支援や学校ということもあるため、この場のみではなく教育委員会でもまた話をさせていただき、報告をさせていただくといった形をとらせていただく。

【住民からの通学定期券の無料化を求める要望について承認】

5. 閉会（佐々木係長）